

アマダイ通信NO. 65b

(Tile fish network letter)

08年春一番吹く


知人・友人各位


厳しい寒さが続きますが、皆様、如何お過ごしでございましょうか？日本人の半分が罹り、死因の3分の1を占める癌を患って5年、どうにか6分の1の生き残り組に入ったようです。この間、3千人の本通信読者の何人かも、癌で亡くなりました。統計上は読者の半数が癌を患い、千人は癌で亡くなります。私の場合も一回戦が終わっただけです。

余り「模範的患者」ではないかも知れませんが、二回戦が始まって癌にかかりきる、「癌と戦」い、癌に振り回されるようなことはせず、残された時間を如何に生きるか？如何に人の役に立つか？を考えて生きたいと思えます。

◎あれから5年、鈍感力の賜物？

小平市の消化器癌検診で便潜血検査が陽性だと言われ、5年前の2月、肛門からカメラを入れる。径5センチほどの腫瘍が上行結腸にあり、盲腸もろとも大腸を30センチ切り取り、周囲のリンパ節も9箇所切り取る、5時間以上の大手術。御茶ノ水の東京都教職員共済組合三楽病院の主治医、阿川外科部長からは4年経過時点でもう完治ですと、早々と「三下り半」を突きつけられていたのだが、この3月で術後5年経過、ようやく名実共に完治、とりあえず大腸癌と「おさらば」と言える状態になる。

生命保険会社に出す診断書に、「大腸癌ステージⅢb」とあり、先生に聞いても教えてくれない。岩波新書の「胃がんと大腸がん」を読むと、「大腸癌ステージⅢb・・・ほとんど治癒する見込みなし」とある。データ上は余命いくばくもないなどとはつゆ知らず、点滴の管が外れると外出許可をもらい、退屈しのぎに病院から本郷の事務所に出勤。退院後は術前と同じように仕事に復帰、夜の付き合いも同様にこなす。術前に予約していたからと、抗癌剤の集中治療を延ばしてもらい、5月の連休に娘とスペイン旅行も。そんな暢気な父さんは折からのイラク情勢が気になり、ブッシュのイラク侵攻も、鎮痛剤や抗がん剤の入った点滴のスタンドを引きずりながら、病棟のテレビで見続ける。ブッシュのイラク戦争も、の癌も、当初の見立てとは全く違う展開になってしまったのだが。

旅行から帰ると、阿川先生がようやく教えてくれる。ステージⅢは腫瘍が大腸の組織内でようやく留まっている段階、Ⅳは大腸の壁を突き破った段階で、aは他の臓器に転移していない段階、bは転移している段階。Ⅰ～Ⅴ（手遅れ）よりもaかbかの方が問題で、の場合は切り取った9ヶ所のリンパ節のうち、3ヶ所に転移していたので、bなのだ。

肝臓、肺、脳の順で転移する危険性があり、肝臓が一番危ない、肝臓に負担をかけないように、休肝日を作りなさいという。その指示は中々守れないが、腫瘍マーカーも低い数値のまま推移、今のところ、CTや内視鏡でも転移や再発の兆候は見られない。転移していたのはリンパ節3箇所だけで、一回の手術で全部取り切れたということか。阿川先生はじめスタッフの皆さんには感謝してもし切れるものではない。

◎王室専制解体、ネパールは何処へ？

専制王制を廃止し、共和制へ移行、新憲法を制定することになったネパール。だが、王制の即時廃止を主張する毛沢東派が制憲議会を一時離脱する等、政情不安が再発、ツアー不成立の心配もあったが、国民投票が行われることで妥協が成立、予定通り成田を発つ。

①強行スケジュールの始まり

師走の29日、定刻より少し遅れ、5時半頃成田を離陸、7時間ほどで、バンコク着。入国審査に時間がかかり、12時過ぎにホテルで用意のラーメンを食べ、シャワーを浴び終わると、彼氏とラブ電話の娘はスヤスヤ寝息を立てている。6時にモーニングコールで起き、慌てて食事して7時半に空港へ向かう。強行スケジュールの始まりだ。

この間まで季節はずれの洪水が荒れ狂い、多くの犠牲者を出したバングラディッシュ上空を飛び、ネパールへ。ヒマラヤの雪山を遠く眺め、段々畑を舐めるように巡回し、排ガスと土ホコリで？霞むカトマンズ盆地へ。ボーディングブリッジもなく、徒歩で入った国際空港のターミナルビルは、レンガ作りの二階建て、ラオスのビエンチャン空港に似る。前面を仕切った運転室に助手も乗せ、インドタタ社製のオンボロバスはカトマンズを横目に、世界遺産の、9世紀からの旧王宮や寺院の立ち並ぶバクタプルへ。埃っぽい曲がりくねった細い道の両側に土産物屋や露店が並ぶ。インドのニューデリーの様に、車が止まる度に物乞や物売りが窓を叩く訳でもなく、大金持ちの白亜の豪邸脇にブルーシートのスラムが連なる訳でもない。並べて貧しい感じだ。少ない富が国王一人に集中するからか？

憲法を改正し、専制王制もようやく廃止され、共和制になる。武装蜂起して国土の8割を支配したと豪語する毛派も新体制に加わる。中印二大国に挟まれ、政治、経済的に大きな影響を受けてきたヒマラヤの小国に希望を！と願わずにはいられない。隣国ブータンでは国王主導の上からの民主化が進み、開明的な国王と評価が高いが、隣国に教訓を得た、国民の側からの民主化、王制廃止に対する、王制と王室利権存続の先手なのか？

②闇夜の携帯は懐中電灯に変身！朝日に輝くヒマラヤ

2泊目はヒマラヤ眺望の絶景地ナガラコット。黒煙を吐き出す煉瓦工場が散在するカトマンズ盆地を抜け、野菜や小麦の段々畑を縫い、標高2千mの峰を目指す。舗装も剥げかかった細い山道で上りと下りのバスが睨めっこ、思わぬ「渋滞」に巻き込まれる。全員がバスを降り、ヒマラヤの絶景を鑑賞、感動の声と共にデジカメのシャッターを一斉に押す。

ようやく動き出すと、先に故障車があってバスは通行不能だと、小型バンに乗り換えホテルに。その日のハイライト、ヒマラヤの夕陽には間に合わず。建築途中のホテルのレストランで、大瓶4百ルピー（1ルピー2円）の地ビール「エベレスト」を飲む。湯船はなしで、シャワーだけ浴びベッドへ。夜中目を覚ますが電気は止まり、ロウソクも燃え尽き、真っ暗闇。充電中の携帯を手探りし、液晶の光を頼りに夜中のトイレに入る。就寝も早かったのも、寝る気にならない。携帯に土産話を打込むにも、真暗闇でキーがわからない。寝るしかない。目覚めては二度、三度と目を瞑る。電気の偉大さをあらためて知る。

モーニングコールで5時起きすると電気も回復。日の出前とは言え既に薄明るく、屋上は三脚を構える人で一杯。中、韓、米と国際色豊か。防寒着が必須と言われた割には寒くもない。目の前にはマナスルだ、ダウラギリだ・・・と言われても、どれがどれか直ぐ忘れる。2千キロに渡る標高7、8千メートルの世界の屋根の絶景が目の前に広がり、朝陽に光り輝く。忙しくシャッターを押す。昨日あんな峠で沢山写真撮るんじゃなかった！の声。

③雪男 (Y e t i) に乗り、ポカラへ！ドンツクの太鼓に迎えられる

登った山道をカトマンズに下り、プロペラ機でポカラへ。右側C席が特等席と添乗員。一つ残った最前列C席から窓越しにシャッターを押し続ける。ヒマラヤの雪融水が運ぶ土砂が、地球の窪みを長年月かけ埋めたポカラの平地を、雪融水が又、長年月かけめぐり、百メートルもの深さの溪谷が何本も走る。中国黄土高原の侵食谷の様だ。冷たい水が石灰岩を削り白く化身する。谷底を白蛇が走り、大湖を三つ作る。朝に夕に、紅く燃える白銀の世界の屋根が湖水に映え、はやる気持を乗せ標高千mのポカラにYeti航空機は無事着陸。

途中舗装もない狭い道をガタゴト走り、バザールの曲がりくねった道を器用に擦れ違い、オンボロバスは町外れのリゾートホテルへ。深い侵食谷の段崖の先端にある素敵なリゾート。プールはあるが、今は冬、さすが❄も泳ぐ気にならず、持参の海パンは役目を果たさない。ヒマラヤの見えるバルコニーでネパール本を読む、気分は最高だ。

翌朝も早起き、初日の出を拝もうと近くの山へ。かつて反戦闘争の現場でよく聞いたドンツクの太鼓の音に迎えられる。「日本山妙法寺」と書いた山門を潜り、境内で初日の出を拝む。ヒマラヤの山々もナガラコットより近くに見えるが、雲に見え隠れ、盛り上がりには欠ける。下山後朝食、バザールを散策、お寺も拝観。庶民は中国製の安物をバザールで買い、スーパーでは日本製等を売るといいますが、スーパーといっても単なる個店の寄せ集めだ。

④神々の山と地上の喧騒と貧困と・・・共和制へ、国民に幸あれ！

翌朝も別の山へ。ヒマラヤが大きく迫り眺望抜群。狭い山頂に鈴成りでシャッターを押す。段々畑に朝靄たなびき、石積みの家から朝餉の煙が上がる。絞った乳を運ぶ少年、軒下で髪を櫛削る少女、重い背負籠を頭の帯で支え、仕事に出る老女。擦れ違った子供がキャンディ、マネーと手を差し出すのは興覚めだが。再び雪男に担がれカトマンズへ。騒音とクラクション、土埃と排気ガス、喧騒の街、カトマンズ。観光で2、3日滞在するにはいいが、とても住める街ではない。国土の半分を険しい山々が、国富の半分を国王が占め、庶民の生活は貧しい。カトマンズの中心部でさえ穴ぼこだらけの道だ。

230余年に及ぶ王制を廃止、共和国になるネパール。世界の最貧国の、世界で最も豊かな王の財産をどうする？「国営」航空、電力、電器etc。国民の手に取戻し、経済開発と国民生活の向上に役立てられるか？二大武装勢力の王の軍隊と毛派の人民解放軍の融合、共和国軍への再編は可能か？クーデターや内乱の恐れは？上から下まで、権力を私物化し賄賂が横行するという、腐敗した政治・官僚制の建て直しはできるか？

重い荷を背負う苦力、荷台一杯の荷物を運ぶ自転車やリヤカー。首都の中心の穴ぼこだらけの道を埃と排ガス、騒音を撒き散らし走るインド製バイク、日本製中古車。インド製のスズキだけでなく、60年代の名車カローラも走る。その脇で籠を敷き野菜を売る老女。

⑤指差す先はエベレスト、名簿集め同窓会することに！

6日目、ツアーの目玉の一つヒマラヤ遊覧飛行。5時モーニングコール、5時半食事、6時ハイアットホテルのロビーに集合。が、満天の星空に突然深い霧が立ち込め、飛行は中止。冷たい水のプールサイドで本を読み、午後から市内観光。これで4日連続未明の起床。体調崩す者が続出、途中でタクシーを拾いホテルに帰る組も。❄も体がだるく、せっかくの民族舞踊のディナーショーも全く食欲が湧かず、地酒もまずい。風邪薬を飲む。

最終日の翌4日、又、5時起き。6時に空港に向かう。またもや霧が立ち込めるが、8時過ぎにはそれも消え、順番にフライト。窓が凍結し大丈夫かと思うが、直射日光を受け、直ぐに溶ける。ヒマラヤ2千kmの山脈を一望、あれが！とスチュワーデスが指差す先には白く輝くエベレスト、世界最高峰！

今回のツアーは旅費の高い時期なのに年長カップルが多い（17人中5組）。聞けば弁理士、医者、証券会社のフィナンシャルプランナー、会社経営等、現役の年寄（私より）が多く、駒場の中国語クラスで2年上の公認会計士も一緒。年寄と女性も働く、労働生産性を高めることで経済を発展させ、世界に貢献、一人当たり国民所得を向上させるという、これからの日本の先取のようなツアー。再会を約し、成田で解散する。

◎50年目の初負傷・・・スキーで左ふくらはぎ肉離れ？

子供の頃、なぜか我が家に1台の木製スキーがあった。真ん中に革バンドで結ばれたL字型の金具が二つ取り付けられ、そこにゴム長靴を突っ込み、後の鉄のスプリングを長靴の踵に掛けて、靴とスキーを固定する。歩く時は踵が上がるので、山スキーのように半固定だ。先端に尖がった金属のついた竹の杖に、竹の輪を革紐で固定したのがストックだ。ワックスは蠟燭を塗って鑊で溶かしてと、今から思うと随分原始的なスキーだったが、僕にとっては宝物だった。

物心ついた時から、裏山や「我が家の庭を貫いて走る」五能線の盛土を、滑り降りては登りした。随分使いこまれたスキーだったが、他に誰も持っていなかったし、教えてくれる者もいなかった。滑っては転びして、一人体で覚えていった。毎日学校から帰ると陽が落ちるまで滑ったが、秋田の冬の夜の訪れは早く、あつという間に楽しい時間は過ぎた。

体で覚えた我流の滑りなので、自分では格好良く滑っている積りだが、傍目には綺麗でないらしい。それでも、どんな急斜面でも、前傾姿勢で気合を入れて突っ込み、滑ってしまう自信はあった。今シーズン3度目の1月19日の土曜日も、そんな気分で友人二人と群馬の水上温泉の奥の、宝台樹スキー場を自在に滑っていた。

馬の背の、良く整備された長いメインの上級コースを数本滑ると、気分転換に隣の斜面の雪上車が入っていない、コブだらけの上級コースに移る。子供の時は新雪の上ばかり滑っていたので、コブは得意ではない。それでも休み休みコブを滑り切ると、気が緩んだか？緩斜面の入口で転倒。右足のスキーはうまく外れたが、外れなかった左足が伸び切り、ブチッと切れる音がする。やばい！と思うが、痛みもない。又、スキーを履き直し救護所まで滑り、ふくらはぎに湿布薬を貼って貰い、途中から自分で車を運転して早目に帰る。ピッコ引いてどうにか歩けるので、取りあえず食い気が先に立ち、医者は後回しにする

◎救急病院たらい回し？ふくらはぎ三頭筋一部断裂、全治3、4週間！

スキーが外れた右足は大丈夫で、オートマチック車は運転できる。少し遠いが、三鷹寮で一年先輩の須藤心臓外科教授の寮同室ということで大事にしてくれる、三鷹寮近くの杏林大病院に車で行こうと電話するが、手術中で駄目。近くの公立昭和病院も、間もなく救急車が来るから治療できないという。109番に電話すると近くの救急病院を3箇所紹介してくれ、最初に電話した一番近くの病院は大丈夫だという。

9時頃ようやく病院へ。ふくらはぎの三頭筋一部断裂で全治3～4週間。5～10パーセン

ト切れ、時間が経ったので内出血でふくらはぎの腫れがひどい。膝から下、ふくらはぎの半周をギブスし、松葉杖と消炎・鎮痛剤を貰う。骨折でも、右足でもなかったのは不幸中の幸い。入院せずに済んだし、車も運転できる。多少不自由だが、仕事はどうにかかなりそう度でホットするが、救護所までスキーをした上に、来るのが遅すぎたと医者には叱られる。

幸い翌日は日曜日、大人しくしていればいいのだが、消炎・鎮痛剤も飲んでいたので痛みもない。じっとしていられない性格なので、車を運転し近くの図書館へ。翌日は早朝から仙台へ出張なので、ギブスから顔を出している左足先を寒さからどうして守るか？ 思案しながら経済雑誌を読み耽る。

◎俄か交通弱者、発想変えれば一本足人生も楽し？

月曜早朝、左足先を厚い靴下とホカロンで守り、スペイン旅行で買った革のザックに書類を入れ替え、こまちで仙台へ。タクシー呼び小平の駅へ。エレベーターとエスカレーターでホームへ。ラッシュの急行で一本足で30分はキツイが、右足鍛えられると痩せ我慢。杖に両手を取られ貴重な読書時間失うが、いつもは見ない景色が見えると発想を変える。何と積極的、楽天的性格とあらためて思う。ラッシュの高田馬場で押されて杖ごと倒れないか、学生時代、後ろ向きでデモ指揮して引っくり返り、踏み潰された悪夢を思い出すが、「二次災害」はなし。池袋で埼京線、大宮で新幹線に乗り換え、どうにか予定通り仙台着。

鉄道の駅もバリアフリー化が進み、障害者も大分楽になった。ただ表示やアナウンスが少なく、エスカレーター、エレベーターの数自体も少ない。ホーム上の乗降地点までの移動もきつい。シルバーシートも譲って貰い、あらためて人の情けを知るが、ホームに停止位置の表示がもっとあれば楽だ。最悪の駅はJRお茶の水だ。狭いホームの階段に車椅子用のガイドレールがあるだけ。医科歯科、順天堂、日大の大学病院の他に大きな病院も幾つかあり、バリアフリーの必要性が大きい駅だ。再開発計画の再始動が待たれる。地下鉄も新路線はバリアフリー化が進むが、銀座線、丸の内線など古い路線の充実が待たれる。

仙台で二つアポをこなし、東京へ戻って京橋で打ち合わせ、そこからタクシーを飛ばし、医者の禁を破って銀座で一杯やりながら打ち合わせ。タクシーを何度も拾い、松葉杖と汗だくで格闘し、どうにか交通弱者初日を終了。慣れぬ松葉杖で掌は痛み、首と肩が凝る。移動の度に大汗を掻き、体の移動にこんなにエネルギーを使うものかと驚く。あらためて足の偉大さと己の重さを知る。

◎交通弱者二日目「初滑り」、新宿大ガードでも無様に転ぶ

雪の火曜日、交通弱者二日目の朝は西武新宿駅のホームで、怪我している左足の杖を滑らせ、前のめりに「初転び」。スベスベのタイルに雪融け水の「ワックス」がかかり、見事に滑り尻餅をつく。凹凸のついたタイルにすべきだ、けちって安いタイルにして！と気をつけて歩くが、今度は大江戸線の入口で又、ツルッと転びかける。今度は黒御影石、多少凹凸があっても濡れると滑る。こんな所に金かけて！誰が設計した！と憤る。

慣れ親しんだ雪も今は何とも恨めしい交通弱者三日目。カシミヤコートでは移動の時に汗掻くばかり、風邪を引いてしまいそう。フード、ライナー付きのバーバリーに替える。10時の事務所への来客に備え早目にタクシーを呼び、田無で準急から各駅停車に乗り換え、足と杖ではなく、お尻で自重を支える。特急、急行、準急と次々目の前を通り過ぎるが、

揺れる車内のフラミンゴスタイルより楽だ。両手も解放され、本も読める。できるだけ各駅停車に乗ることにする。本はよく読めそうだ。電車で座る都度背中のバッグから本を取り出すのは面倒なので、ポケットに新書を忍ばせる。

一週間後の火曜日も雪模様。朝、五反田のTOCで担当役員に桜木町の床面積10万平米のビルの外壁受注のお礼の営業。帰りにタクシー降り、道路際のL字側溝のコンクリで左杖がツツと流れ、転びそうになる。コーヒーでも飲んで打ち合わせをと歩く間に、歩道のタイルで又、ツツ。ヤバイとコーヒーを諦め事務所へ帰る。夕方本郷で一杯やり、大江戸線から西武線に乗り換えようとして、濡れた大ガードのタイルで杖が滑り、万歳！スタイルで大往生。さっと左右から手が伸びて起こして貰うが、しばらく左肘と両脇が痛む。多少表面がガラガラタイルでも、雨や雪では滑り止めにはならないようだ。

◎足が使えないと手も使えず、一番困ったのは和式トイレ

俄か身障者生活を一週間するとタクシー代もかさむが、ラッシュの電車でフラミンゴスタイルを続けるのと和式トイレで用を足すのが一番辛い。新宿の紀伊国屋本店のトイレで、怪我した左足を前に伸ばし、給水管に捕まって体を支え、右足一本の中腰で気張る。中々大変だ。患部を温めてはいけないと、左足の膝下を大きなゴミ袋に包んで湯船から出して入るが、洗っていない左足ふくらはぎが痒くなって来る。

両手を杖に取られ、買い物に行っても物が持てない。今は専業主婦の妻だが、我が家ではコーヒー煎れるのも、豆を買うのも、酒を買うのも●だ。なぜか共働き時代の役割分担が惰性で？続く。日曜日、図書館帰りに、売り場と駐車場が近いディスカウントストアへ。駐車場の大きなカートに片足の杖を乗せ、右手、右足と左の杖で買い物。カートからコーヒー豆と焼酎、ついで買いのナッツをナップザックに移し、両杖突いて車に戻る。

2月7日の三鷹クラブの講演会は二次会に白酒(バイチュウ)も持ち込み、盛り上がる。会場が二階でエレベーターもないが、階段で転がることもなく、顧問先から頂いたタクシーチケットで帰る。神田鈴蘭通りの三幸園近く、個人タクシーは沢山待機しているが、●がチケットを貰ったチェッカーズのタクシーは中々来ない。寒夜のフラミンゴスタイルで20分近く待つ。JCB、東京無線等タクシーチケットが乱立しているのは大変不便だ。

◎二足から三足、更に四足歩行、そして又、二足歩行に！

6千5百万年の人類の進化を逆行？3週間でギブスが外れると、1本足と2本の杖から2本の足と2本の杖の四足歩行に退化する。消炎塗布薬を貰い、左足も徐々に使う。歩くのも大分楽になると、杖を突いて歩くのが、何か仮病のように思えてくる。

夜、歌舞伎町で飲んで西武新宿駅のホームに上ると、各駅停車の電車が発車間際。つい慌てて走ってしまう。帰って風呂で足を見ると、ふくらはぎがパンパンに腫れている。翌朝、タクシーを呼んで家を出る時は杖を忘れそうになる。一応杖を小脇にタクシーに乗る。

4週目の土曜日の診察で、ようやく松葉杖から解放され、二足歩行に戻る。気分がいい。ようやく自由を取り戻した気分だ。人間が初めて二本の足で歩いた時はどんなだったか。怪我して5日目に、住友不動産の小野寺社長も参加して、能代高校の同期会を住友三角ビルのどんとで開いた時は、干場、精彩がないな！と皆からからかわれた。今思えばその通りだ。二足歩行になると、ゴルフ、スキーはいつ再開できるか？気がはやる。

◎エネルギー・経済・市場と資源・競争・・・77回三鷹クラブ定例懇談会

今回は昭和50年入寮、これまで一番若い、川崎重工(株)車輛カンパニー担当部長の堤 香津雄さん(高松高校出身・大学院化学工学)が講師です。寮時代のことを聞くと、かれこれ6年在住し、いつも飲んだくれ、74年には自治会選挙にも出、デモがあれば指揮をとっていたとのこと。その堤さんが川崎重工業に就職した後、ずっと先端的な研究を主管しており、今回も「電線不要の電車」の実現を目指す最先端技術、「ギガセルプロジェクト」を通して、エネルギー、資源、市場と経済・戦争の問題について話していただきます。

原油価格高騰が問題になっていますが、石油価格の高騰は負の側面だけではありません。タールサンドのみならず、海底深く眠るメタンハイドレート等、未利用の化石資源を利用可能にします。又、いずれ枯渇する化石資源以外にもコスト高で利用が進まない風力発電、太陽光発電、バイオエタノール、更に木屑等利用のバイオマス発電、ごみ発電、家畜の糞尿を発酵させたメタンガスの利用等、再生可能エネルギーも利用可能にします。

5百mlのミネラルウォーターが150円なのに、ガソリンが10150円で、高い！というのもおかしい。高いと言っても、ミネラルウォーターの半値！水は使えばいずれ地下に滲みるか、海に流れて蒸発、雨となって地上に降り注ぎ、「再生」されるが、使えば炭酸ガスとなって地球を温暖化し、再生不能な化石資源よりも高価というのはおかしな話です。

極端な話、石油はもう安くならないし、安くない方がいいのではないかと？又、石油は「燃やして終わり」という、燃料としては使わない方がいいのではないかと？どうしても石油でなければできない化成品や、医薬品の生産に限り、できればそれも繰り返し再生利用し、貴重な化石資源を、後に続く世代のために残しておくべきではないかと？そのためにも、新しいエネルギーシステム、交通システムの開発が待たれます。堤さんに最先端の技術と、それを巡る世界の政治、経済状況についても話していただきます。

堤さんには同年入寮の弟さん、堤 敦司 東大教授(エネルギー連携センター長)がおり、案内文の作成をお願いしたのですが、身内の紹介は難しいのか、言いたしっぺの私が書く羽目になりました。的を射た案内になっていないかもしれませんが、門外漢ということで、ご容赦下さい。

文責 干場 革治(S41年入寮)

日時：平成20年3月14日(金) 18時30分～21時

場所：大阪弥生会館(大阪市北区芝田2丁目4番53号 電話 06-6373-1841)

交通：JR大阪駅中央北口から徒歩5分、ヨドバシカメラ奥、JR西日本本社手前

会費：5000円(夕食・飲物付き)

申込先：平賀俊行・干場革治 Fax 03-5689-8192 電話 03-5689-8182

有限会社ティエフネットワーク Email: tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp

◎先斗町の芸妓、舞子総上げ？大パーティ

顧問先の因幡電機産業の、創業者の遺訓だという、今時珍しい豪勢な新年会で大阪へ。国際会議場に二千人程集まり、50人程の綺麗どころの芸を楽しみ、接待を受ける。帰りは新大阪駅的美々卵で、中国山西省大同市で黄土高原緑化を進めるNPO法人「緑の地球ネットワーク」の高見事務局長、神戸の若い久米弁護士と寮の「同窓会」。舞妓パーティを途中退席、肥後橋から新大阪にタクシーを走らせ、大阪名物の饅頭すきと凍結酒で盛上がる。

「東大三鷹国際学生宿舎」に衣替えして初期の寮生、30過ぎの久米弁護士と、飲み会や

イベントを一緒にした寮生の消息で話が弾む。都市工の大学院にいたタイの王族のアピイ君は、国王に官界と学界のどちらがいいかと聞かれ、学界を選びチュラロンコン大で教えている。仙台二高出身の経産省の曳野君は山口市の産業労働部長をしている。前田君は郷里の長崎市役所で頑張っているとか、懐かしい若者の活躍を聞くのは嬉しい。

後十年もすれば彼らは日本の、世界の中枢でもっと活躍している筈だ。●もベンチャービジネスの「ウッドプラスチック」の拠点を世界に張り巡らし、世界中を行脚、彼らと美味しい酒を酌み交わすことができれば最高だ。

◎留学生とのスキー中止も・・・

12月8日の「三鷹市民と東大三鷹国際学生宿舎生の交流会」で院生会の小松原君と、試験が終わったら留学生と一緒にスキー行くことにしたが、●の怪我で行けるかどうか？雪初体験のアジアの留学生が、スキーに感激する姿を、今シーズン是非見たいのだが。

代わりに？2月29日に久しぶりに、●事務所で飲み会をすることに。聞けば今年の入寮選考から、寮生も面接に参加するという。又、世界から優秀な学生を呼ぶためには勉強環境の改善をということで、共用施設を含んだ高層棟増築計画が動き始めた。寮が若者の切磋琢磨の場、国際交流の場になるようにOBも貢献できればと思う。(再見)